

資 料

ヴァインランド・トレーニング・スクールにおける
「精神薄弱」特殊学級担当教員養成研修プログラム
— 初期の実態 —

米田 宏樹*・本間 貴子*・岡 典子**・山田 慶子***

本稿では、20世紀第一四半期の米国、ヴァインランド施設の特級学級教員研修プログラムの実態を明らかにすることを目的とした。ヴァインランド施設の夏期講習は、「精神薄弱」特殊学級担当者と担当予定者を主な対象とした実習中心の夏期6週間の養成研修プログラムとして、1903年より開始された。施設正規教員の研修会から発展したこの講習会は、施設の処遇理念と感覚訓練、手工訓練中心の訓練方法を公立学校特殊学級に提供した。講習修了者の多くは、特殊学級担任として活躍し、なかには、類似の養成講座の講師を務める者もいた。ヴァインランド施設より修了証を授与された修了者は、当時の標準的訓練を受けた者として評価された。

キー・ワード：「精神薄弱」 特殊学級 施設 教員養成 歴史的研究

I. はじめに

20世紀初頭の米国では、公立学校制度の充実にともない「学習遅進」児問題が浮上し、公立学校内特殊学級が成立していく。1896年のロードアイランド州プロヴィデンスを皮切りに、1916年までに、全米119の都市に「精神薄弱¹」特殊学級（学校）が開設される（U. S. Commissioner of Education [1917] 979-682）。

「精神薄弱」者の施設総収容化政策のなかで、これまで、「精神薄弱」児の教育は、「精神薄弱」者施設で行われることが原則であり、公立学校は彼らの教育の場ではなかった。しかし、実際には、総収容化政策は破綻し、「精神薄弱」者施設は多くの入所待機者を抱えて過密状態であつ

た（中村・米田, 1999）。このため、公立学校当局は、やむを得ず、公立学校内で認識された「精神薄弱」児の教育・訓練を特殊学級で行うことになる（Chace [1904] 396；中村 [1992] 87-90）。公立学校当局は、「精神薄弱」教育の知識・技能を有する担当教員の養成という課題に直面することになる。

特殊学級担当教員養成は、「精神薄弱」者施設で行われるべきであることが主張され（Channing [1900] 45-46）、実際に「精神薄弱」者施設は、観察・実習の場を用意した（中村 [1993] 60）。

例えば、ボストンに開設された特殊学級7学級の担当教員7名のうち、3名は、「精神薄弱」教育の未経験者であった。ボストン市当局はこの3名を州内のウォルサム「精神薄弱」者施設とペンシルヴェニア州エルウィン「精神薄弱」者施設に3ヶ月間派遣し、研修させた。この研

* 筑波大学大学院人間総合科学研究科

** 東京学芸大学特別支援科学講座

*** 社会と障害の研究会

修期間中の給与と必要経費はすべて市の負担であった (Chace [1904] 396)。

一方、過密状態の「精神薄弱」者施設は、「精神薄弱」者を隔離処遇下で教育し保護するという従来からの施設の役割を履行することが困難な状況に直面したことで、そのサービスの範囲を広げ、公立学校に施設の専門的知識・技能を提供すべく特殊学級教員への研修プログラムの提供と公立学校内クリニックによる「精神薄弱」児の発見・診断、教師や家族への助言・指導を行うようになる。施設は、「精神薄弱」者の保護収容と施設内自活のための教育という従来の役割に加えて、コミュニティ内の「精神薄弱」者の診断、教育、生活支援等全般的問題に関する総合的実践研究センター²⁾としての役割も指向するようになっていくと考えられる。

施設が、公立学校特殊学級の運営に協力し、特殊学級担当教員の研修センターとして「精神薄弱」児の観察・実習の場を提供したのは、特殊学級が、施設がその過密のために受け入れられない学齢期の「精神薄弱」児の教育と保護を補完する一方で、施設が、特殊学級における教育後の「精神薄弱」者のケア補完することが前提とされたからである。施設があつてこそその特殊学級の役割が公認される側面が強く、両者の関係は相互補完的關係にあつたといえる (中村 [1992] 89 ; 米田 [2003] 49-53)。つまり、特殊学級担当教員の研修の場を提供し、特殊学級の運営に協力することで施設の存在意義が強められる状況にあつたのである。

それでは、実際に「精神薄弱」者施設が提供した特殊学級担当教員研修の内容はどのようなものだったのだろうか。

Sarason and Doris (1979) は、特殊学級担当教員の養成と特殊学級における教育の方法・内容の設定に関して「精神薄弱」者施設、なかでも、ヴァインランド・トレーニング・スクール (以下、ヴァインランド施設³⁾) の影響を示唆している。ヴァインランド施設の特級学級担当教員夏期研修プログラム (以下、ヴァインランド夏期講習) の修了者は「主要都市の特殊教育プログ

ラム開発に関するスーパーバイザーに抜擢されていたことは何の疑いもない」(319) ことや、修了生が「当時の専門論文の頻繁な投稿者として現れている」(319) ことが、この影響の根拠とされているが、具体例は示されていない。また、プログラムの内容も示されていない。

中村 (1993) は、特殊学級担当教員養成事業が1897年のペンシルヴェニア大学を初例として夏期講習により開始されたことと、その後の短期養成では精神薄弱者施設が主な場であつたことを指摘し、ヴァインランド夏期講習を、心理学者を擁して実施された養成プログラムの典型例として示しているが、ここでは、そのプログラムの詳細は示されていない。

McCaffrey (1965) やZenderland (1998) は、ヴァインランド施設関係者の人物研究のなかで、ヴァインランド夏期講習について触れているが、ここでもプログラムの詳細は十分には示されていない。

そこで、本稿では、ヴァインランド夏期講習の内容とその影響を明らかにすることを目的とする。本稿の作業は、先に述べた「精神薄弱」者施設の総合的実践研究センターの機能を検討するための基礎作業でもある。

資料は、New Jersey Training School (1909) (以下、英語表記はNJTS) およびヴァインランド施設の紀要であるTraining School⁴⁾ (以下、TS) 上の講習案内記事であり、分析の観点としては、講習内容と受講対象者、受講修了者のその後の活動と施設との連携を設定した。受講修了者の活動に関しては受講者名簿が入手できている1903年～1908年の修了者を中心に検討がなされた。修了者が関連専門誌のうち、AASF (註1参照) の機関誌であるJournal of Psycho-Asthenics (以下、JPA) と、ニューヨークの特級学級指導主事のE. E. ファレル (Farrell, E. E. 1870-1932) が中心になって創刊した特殊学級教育の啓蒙・情報提供誌であるUngraded (以下、UG)、全米精神衛生委員会の機関誌Mental Hygiene (以下、MH) の3誌、およびTS上に論文・手記等を掲載しているか否かが、1904年から

1930年頃の時期を対象に調査された。掲載がある場合には併せて、その勤務先・所属が確認された。その他の修了者の活動についても、文献から確認されたものについては記述された。

なお、本研究は歴史的研究であり、歴史的用語を用いた。また典拠については、原則、文中に（著者〔発表年〕該当ページ）の形で示したが、無記名記事やページが確認できない記事については（誌名〔発表年〕巻号数、（ページ）、見出し）とした。なお、施設紀要等の無記名記事については文末引用文献一覧への記載を省略した。また、施設年報については、（AR〔発表年〕ページ）とした。

II. 特殊学級担当教員夏期講習開講の経緯と講習内容

1. 施設正規教員研修会からの発展としての特殊学級担当教員講習

ヴァインランド施設創設者で施設長のS. O. ガリソン（Garrison, Stephen Olin 1853-1900）は、医師である施設長たちが主導し、収容保護機能が強調される「精神薄弱」者施設処遇のあり方に批判的であり、初期の「白痴」学校同様、小規模で家庭的で教育を重視する施設をめざしていた（Zenderland [1998] 60-61）。彼は、施設長には、実際に「精神薄弱」者を指導した経験を持つ教育者がふさわしいと考えていた。そこで、彼は、副施設長として、また、ヴァインランド施設の教育プログラム管理運営者として、インディアナ州立「精神薄弱」者施設教育部長で有能な教育者であったE. R. ジョンストン（Johnstone, Edward Ransom 1870-1945）を選定した。1898年、ジョンストンはヴァインランド施設の副施設長（1900年より施設長）に就任し、教育内容・方法の拡充を提案している（AR [1898] 26-31; McCaffrey [1965] 137-172; Zenderland [1998] 60-61）。彼は「精神薄弱」児の教育は、学業相当の活動（school work proper）と手工訓練、体育（physical culture）、音楽の大きく4つの内容で構成されるべきであると、考えていた（AR [1898] 27-31）。

Table 1 1899年ヴァインランド施設正規教員講習会の講義内容

1. 施設生活とその意味
2. 精神薄弱者事業の概要
3. 精神薄弱者処遇の歴史
4. ヴァインランド施設の目的
5. 精神薄弱の原因
6. 目の欠陥と色盲
7. 視覚障害
8. 鼻と喉の病氣
9. 診断
10. 精神薄弱者の相貌
11. 病理学的・教育的分類
12. 精神薄弱の予防法
13. 精神薄弱児が施設や特殊学級でケアされるべき理由とケアの方法
14. 児童研究
15. 自然児
16. 遊戯
17. 言語訓練
18. 読み能力の発達
19. 子どもの訓練要素としての色
20. 自然研究（理科）と感覚訓練
21. 授産訓練 (industrial training)
22. 音楽
23. 道徳
24. しつけ (discipline)
25. 実験室（研究室）としての精神薄弱者施設

出典：The Supplement to T S [1907] No.1, 28-29.

ジョンストンの「精神薄弱」教育に対する考えと方法をヴァインランド施設に浸透させ、教育内容の充実・改善をはかるためであろうが、施設では、彼の就任の翌1899年より、施設正規教員の研修会（teachers' meetings）が年間を通じて定期的に行われ、「精神薄弱」児に対する児童研究の方法を中心に、「精神薄弱」児や学習遅進児の訓練とケアに対する洞察を深める努力がはじめられた（AR [1899] 32; The Supplement to TS [1907] No. 1, 28-29）。また、同年冬には、研修会の一環として、施設正規教員冬期講習会が催され、その後継続される。この冬期講習会では「なぜ、また、どのようにして、精神薄弱児は施設と特殊学級でケアされるべきなのか」や具体的な訓練・音楽・道徳・しつけ（discipline）等の教育方法が講義された（Table 1）。

一連の研修会では他にも工夫が加えられ、例えば施設教員が、公立学校を見学し、遅進児問題に対する様々な問題の答えや施設で自らが行うべき仕事についての答えを見いだす機会も設けられるようになっていった (The Supplement to TS [1907] No. 1, 28-29)。

ヴァインランド施設のモットーは、「学習遅進や精神薄弱の少女や少年のための真の教育と訓練は、彼らに、彼らが理解すべきこと、すなわち、将来、大人の女性や男性になったとき彼らが活用できる事柄を教えること」(傍点一引用者：AR [1903] 1) であった。

施設正規教員研修会は、このころ目が向けられはじめた公立学校における学習遅進問題、「精神薄弱」問題を念頭に置いた上で、「精神薄弱」教育の場としての施設と特殊学級でとられるべき教育方法について理解を深める内容となっていたことが推察される。

ヴァインランド施設は、施設職員研修会における公立学校見学の他に、非公式に年に数回、ニュージャージー内の公立学校当局者たちとの情報交換会をもっていた (Lincoln報告に対する Discussion [1903] JPA 7, 92-93)。このことから、ヴァインランド施設が公立学校における「精神薄弱」問題を念頭に置いていたことが伺える。

これらの交流を通して、この職員研修会の存在が公立学校関係者に知られることとなり、実際に冬期講習会の1、2の講義を聴講した公立学校の校長たちが、ヴァインランド施設に公立学校特殊学級担当教員に対してこの研修プログラムを開放するように求めたという (The Supplement to TS [1907] No. 1, 29, The Summer School)。

また、1903年6月10日の施設年次総会において、スタンフォード大学の教育学の教授であり、児童研究運動の推進者でもあったE. バーンズ (Barnes, Earl 1861-1935) が、公立学校特殊学級の教員養成機関としての役割をヴァインランド施設で行うべきであると訴えている。彼は、「精神薄弱」児がいる場所で教員養成がされる

べきであること、ヴァインランド施設には高度な教育を受けた経験豊かな施設長と研修を積んだ献身的な教員がいることをその理由とした (AR [1903] 32)。

ヴァインランド施設は、これらの要請に応えるべく同1903年に、試行的に公立学校特殊学級担当教員向けの夏期講習を開講した (NJTS [1909], Announcements)⁵⁾。

2. 夏期講習の対象者・目的・内容

(1) 講習の対象者および目的：1903年の講習開始から1905年までは、学習遅進児や精神薄弱児の教育に従事しているまたは従事することを希望する教師に、対象を限定して講習が実施された。受講資格は、①1年以上の教職経験を有し、②直近の勤務校の校長あるいは施設長の推薦状のある者と規定されている (TS [1904] No. 2, A Summer School for Teachers)。しかし、「一般児童」にかかわる教育関係者や幼稚園教育関係者からの受講希望も多く寄せられたことを理由に、1906年の講習では受講資格の制限が取り払われ ((TS [1906] No. 25, The Summer School for Teachers)、1909年までには受講資格が、①公立学校の教師で特殊学級を担当している者、またはそれを志す者、②心理学・教育学の大学教員、学生で「精神薄弱」の問題に関心がある者、③他の施設の教師や訓練担当者、④子どもに関わるその他の専門職でこのコースによって利益を得られる者、⑤このコースから一般教育への利益を望んでいる教師、の5つに整理され、師範学校や教員養成所の学業証明書 (credential)、すなわち、教員免許 (teachers' license) を有さない受講希望者には、入学試験が課されるようになった (NJTS [1909] Enrollment and Fees)。

そして、夏期講習の目的は「公立学校内特殊学級で指導をしたいと望んでいる教師に専門的訓練を提供することと、教師その他の人々に異常児、学習遅進児、『特殊』児をよりよく理解することができるようにすること」とされた (NJTS [1909] 内表紙)。

実際のところ、特殊学級担当者や担当予定者

以外の受講希望者がどれほどいたのかは不明であるが、この特殊学級担当教員養成をその主な目的とした夏期講習は、通常の学校教育の知識・技能を有する教員免許状保持者に提供されるものであることが、前提とされていたのである。

(2) 講習内容・方法：夏期講習の案内を見ると、1904年の実施計画は、①「精神薄弱」児と学習遅進児に関する概論（1週間）、②原因、分類等について（1週間）、③「精神欠陥」児の社会問題的側面とケアの方法について（1週間）、④訓練（training）、しつけ（discipline）等の方法（3週間）と示されている。訓練、訓育等の方法が6週間のうちの半分の3週間を占めていることからわかるように、講習は実践的内容であるが強調されている。受講生は、施設長、ジョンストンの講義の他、ヴァインランド施設内のいくつかのクラスを割り当てられ、教育部長A. F. モリソン（Morison, Alice F. ; 1909年結婚によりA. M. ナッシュ（Nash, Alice Morison）⁹⁾の指導監督のもと、そのクラスの子供たちの指導を実際に担当しながら、「公立学校の特殊児童に対して何をどのようにすればよいのか」を学ぶことが期待された。受講生は講習期間中、ヴァインランド施設に泊り込み、授業時間以外の子どもの生活の様子についても研究する機会を提供された（TS [1904] No. 2, A Summer School for Teachers）。

翌1905年の案内では、講習内容が、①施設と公立学校における学習遅進児・「精神薄弱」児の一般的問題、②学習遅進・「精神薄弱」の原因・分類と事業の目的等、③学習遅進・「精神薄弱」児問題の社会学的意味、ケアの方法、④知的訓練・道徳訓練・身体訓練、手工訓練と実施される方法、⑤学習遅進・「精神薄弱」児の病理・医療に関する施設医療スタッフの諸講義、⑥学習遅進児の心理学に関する1つか2つの講義、の6セクションに区分され提示されている（TS [1905] No. 14, School for Teachers）。「学習遅進児の心理学」が明記されていることがこの案内の注目すべきところであろう。

この1905年には、ヴァインランド施設の夏期講習のなかで中心的な役割を果たしたとされる心理学者H. H. ゴダード（Goddard, Henry Herbert 1866-1957）が（Sarason & Doris [1979] 317-319）、施設と協同する外部児童研究コンサルタントとして施設年報上に記載されており（AR [1905] 2）、さらに翌1906年には、施設に研究部門が開設され、ゴダードはこの年、その研究部長に就任しているからである（AR [1906] 4）。ゴダードが1905年に、夏期講習の講義を担当したかどうかは定かではないが、「心理学に関する1つか2つの講義」となっていることから、外部協力者のゴダードが担当するには2講義程度が現実的だったとも考えられる⁷⁾。

ゴダード就任以降の1909年の講習実施計画では、子どもとの実際のかかわりと指導実践から学ぶ講習であることがよりいっそう強調され、①教室における子どもの観察と指導、②子どもの個別的な診査、検査と研究、③講義、試験、課題文献講読の3つの柱が、この順で示された。ここでも実践的講習であることが強調されているといえる。それぞれの項目について実施計画の詳細を示せば以下のとおりである（NJTS [1909] Plan of Work）。

①教室における子どもの観察と指導：教育部長A. M. ナッシュ担当。受講生は、毎日1時間、正規の教室で、実習を行うために選ばれた子どもたちの集団と過ごす。初等教育の課題は、かご細工、木工、焼画、特別な感覚訓練、裁縫、編み物、粘土細工である。幼稚園教育の課題は「工作」（technical room work）とゲームと遊びである。さらに通常の教科活動も課題として与えられる。また、一定の時間が職業訓練の授業参観にあてられる。

すべての受講生が、師範学校では教えられない、かご編みや木工等々の「特殊」児童の訓練に有効な科目の基礎を理解できるように、毎週2時間の講義が設けられている。

②子どもの個別的な「調査」（examining）、検査（testing）と研究：研究部長ゴダード博士指導。この課題は、研究所⁸⁾を中心として展開さ

れる。受講生は何種類もの特殊な調査研究を何人もの子どもに対して行い、完全な「診査」を少なくとも4人の子どもについて行う。様々な検査器具の有用性が実際の使用によって学習され、実用的な知能検査が行われ、さらに、その他、教師が「特殊」児童を理解するためのあらゆる方法が習得される。

③講義、試験、課題文献講読：施設長ジョンストン指導。施設長は、教授スタッフやその他の関連領域の専門家の支援を受けながら実施する。

受講生はノートを取り、専門書を読むことが求められる。受講生には、分類と研究のために、認識しやすい典型的な事例（タイプごとの児童集団）が順次示される。

Table 2は各担当者の講義内容を列挙したものである。ゴダードは狭義の「精神薄弱」の心理学、生理学を中心に具体的な講義を行い、施設長ジョンストンは「精神薄弱」と「学習遅進」を内包する形で広義の「精神薄弱（精神欠陥）」の歴史、制度、理念を中心に講義したと考えられる。教育部長ナッシュは主に教育課程と指導法について講義している。

このように3人の講義で、理念・制度に関わる事項、対象児の生理・心理に関わる事項、教育課程・指導法に関わる事項という指導者に必要な知識・技能の主な要素を網羅した講習となっていた。

講習は、平日（月～金曜日）に実施され、午前（9～12時）は配属クラスでの実践（かご編み、木工、裁縫、ガーデニング、自然研究の指導、幼稚園教育、英語科目、身体訓練に関する実際の課題）に当てられ、午後（14～16時）は講義・小テスト・子どもの生活の観察・討議に当てられた。また、講習の最後には試験が課され、試験合格者には、施設理事会が正式に認定した修了証明書（certificate）が授与された。

この講習で注目すべきは、ゴダードの講義内容の「様々な精神薄弱のタイプの知能発達の可能性」「感覚訓練の意義」とナッシュの「最良の方法：手工訓練・木工・かご細工等」であろう。

ゴダードは、1908年に訪欧し知能尺度を入手する。その後1909年の講習では、「子どもの個別検査と研究方法を学び、実際の知能検査を実習する」ことが主要な内容とされるのである⁹⁾。彼は施設での「精神薄弱」児の指導と知能検査の結果の変化の関係を検討し、1912年に「精神薄弱児の改善可能性」という論文を発表し、「精神薄弱」児は施設での教育を経ても知能尺度の得点で進歩しないことを示唆する（Goddard, 1912）。また、彼は、1914年には「精神薄弱」児に読み書き算を指導することの有効性を否定し、手工訓練を薦めている（Goddard [1914] 9-12）。

ゴダードの講義、実習とナッシュの講義、教育実習をとおして、「精神薄弱」児の教育は、感覚訓練、手工と実業的訓練を中心的内容にすべきことが受講生に指導されたと考えられる。

Ⅲ. 夏期講習および講習修了者の特殊教育界における役割

1. 修了者の「精神欠陥」児教育への従事状況

1903年～1908年の受講修了者をあげれば、Table 3のようになる¹⁰⁾。年ごとの受講者数は、1903年10名、04年、05年が5名、06年が7名、07年14名、08年16名で、合計57名の修了者であった。この57名を、出身州・都市別にみると、ニューヨーク州が26名と最も多く、このうちニューヨーク・シティからの受講者は14名、ブルックリン7名、ローム「精神薄弱」施設2名、その他3名であった。次に多いのはニュージャージー州の14名であり、このうち、ヴァインランドからは7名、アトランティック・シティ2名、その他5名であった。この他、ペンシルヴェニア州4名、ワシントンD.C. 4名、メリーランド州3名、コネチカット州2名、と続いている。これらの大半が公立学校特殊学級の担任だったという。確かに、特殊学級や「精神薄弱」施設の所在地やその近隣からの受講者が多いが、所属が確認できたものは7名のみであった（Table 4）。

しかし、たとえば、ニューヨーク州ロチェスターでは、1911年には特殊学級19学級が開設さ

ヴァインランド・トレーニング・スクールにおける「精神薄弱」特殊学級担当教員養成研修プログラム

Table 2 1909年講習案内にみる講義内容

担当者	施設長ジョンストン (E. R. Johnstone)	研究部長ゴード(H. H. Goddard)	教育部長ナッシュ(A. M. Nash)
講義 内容	精神欠陥(mental deficiency)概論	精神薄弱児(feeble-minded child)の程度(degree)を決定するための精神健弱検査法	教育方法: 通常教育の教科・読み・自然研究・感覚訓練等
	精神欠陥児の歴史, ケア, トリートメント, トレーニング	あらゆる学年段階(grades)の子どもの期待できる進歩とは何か	最良の方法: 手工訓練・木工・かご織工等
	精神欠陥の原因・診断・予防	欠陥児の身体と知能との関係	訓育計画(plan for discipline)
	類似した欠陥としての盲聾・てんかん・麻痺・精神異常	遺伝とそれが我々に教えること	煩瑣とその意義・プログラムの概要
	事業の目的と結果, その社会学・教育学との関連について	様々な精神薄弱のタイプの知能発達の可能性	ゲームと遊戯, 身体運動と健康の関係
		注意力が弱い理由となされるべきこと	自由討論
		感覚訓練の意義	
		精神薄弱と精神異常の関係	
		精神薄弱児における様々な失音の型とその意味	
		リズムと音楽の意義	
		意志の訓練のためになされるべきこと	
		正しい方法と誤った方法	
		訓育(discipline)の方法	
		何をどのように教えるか	
		成長の速度とその意味	
	疲労曲線と教授・陶冶との関係		
	情動の測定		
	手工・かご織工・積み物・数の学習等の学習がいかに知能を伸ばすか		
	幸福の心理学		
	遊びとゲームの心理学		
	精神薄弱児への習慣づけ		
	学習の心理学		
	記憶の重要性		
	白痴児・英才児・イデオサヴァン児		

出典: NJTS(1909)をもとに作成。

Table 3 夏期講習修了者名簿(1903-1908)

氏名	州	住所等	受講年	備考
Witling, Gertrude	Ind.	Ft. Wayne	1903	
Davitt, Seidce C.	Ct.	Stamford	1908	
Reilly, Catherine A.	Ct.	Stamford	1908	
Doriss, Anna	Japan		1903	
Kimball, Eva G.	NJ	Atlantic City	1908	
Quinn, Lucy	NJ	Atlantic City	1908	
Evans, L. B.	NJ	Echo Lake	1904	
Glat, Emma F	NJ	Paterson	1907	
Robison, Louise	NJ	Scotch Plains	1906	
Taylor, Elizabeth	NJ	Trenton	1908	
Bernut, Ameline	NJ	Vineland	1903	
Morris, Kathryn	NJ	Vineland	1903	
Warren, Cora※	NJ	Vineland	1903	施設職員
Donovan, Grace E.	NJ	Vineland	1903	
Bolles, Fannie	NJ	Vineland	1904	
Flowers, Bertha※	NJ	Vineland	1907	施設職員
Martz, Agnes	NJ	Vineland	1907	
McCallion, John	NJ	Mount Ephraim	1905	
Burns, U.E.W.	NY	Brooklyn	1904	
Dodd, Merjan	NY	Brooklyn	1904	
Treyz, Louise	NY	Brooklyn	1905	
Nicol, Lucille	NY	Brooklyn	1906	
Carpenter, Etiza B.※	NY	Brooklyn	1907	
Shaw, Jeno E.※	NY	Brooklyn	1907	
Broderick, Philomena	NY	Brooklyn	1908	
Gordon, Eugenia S.	NY	New Rochelle	1908	
Hall, Sofia T.	NY	New York City	1903	
Caterson, Dorothy M.	NY	New York City	1905	
Teas, Elizabeth※	NY	New York City	1905	

氏名	州	住所等	受講年	備考
Fuchs, Dora	NY	New York City	1906	
McGowan, Elizabeth	NY	New York City	1906	
Sutherland, Isabel	NY	New York City	1906	
Gregory, A.L.	NY	New York City	1907	
Leech, Maida H.	NY	New York City	1907	
Rinn, Elizabeth	NY	New York City	1907	
Thoff, Josephine	NY	New York City	1907	公立学校教員
Wiler, Laurette M.	NY	New York City	1907	
Anderson, Meta L.※	NY	New York City	1908	特殊教育主宰
Commons, Clara※	NY	New York City	1908	
Schneiker, Lulu A.	NY	New York City	1908	
Bayne, Marian	NY	Rome Custodial Asylum	1904	施設職員
Samson, Matie	NY	Rome Custodial Asylum	1907	施設職員
Young, Carol K.	NY	Sycamore Farm School, Newburgh	1908	施設職員
Kernan, Mary P.	NY	Utica	1905	
Drachbar, John	Pa.	Lancaster	1903	
Drachbar, Rhea Rufolf	Pa.	Lancaster	1903	
Loder, Olive Murphy	Pa.	East Stroudsburg	1906	
Ginsoll, Florence※	Pa.	Wayne	1908	
Dillingham, Agnes※	Minn.	Faribault-Minnesota School for feeble-minded	1907	施設職員
Ferris, Guthrie I.	Md.	Baltimore	1903	
Bell, Catherine※	Md.	Baltimore	1903	
O'Neill, Jeannette V.	Md.	Baltimore	1908	
Matthews, Mabel A.※	Ri.	Pine Hill	1908	施設役員
Johnson, Sara P.	D.C.	Washington D.C.	1908	
Cook, Susan B.	D.C.		1906	
Carr, G.O.	D.C.		1907	
Sharrow, Mary G.	D.C.		1907	

註: ※印太字の修了者は, ヴァインランド施設紀要, 専門雑誌に論文・手記が掲載されている者。
出典: NJTS(1909)をもとに作成。

Table 4 ヴァインランド施設紀要・専門雑誌にみる修了生の論文・手記

受講年	氏名	勤務先・所属等	Training School	専門雑誌3誌
1903	Warren, Corn	Training School at Vineland	The Improvement of Basil. TS8, 146, 1911/12.	
			The Story of Annabel. TS10, 33, 1913/14.	
			Models for Manual Training. TS10, 125, 1913/14.	
			Models for Manual Training. TS11, 8, 1914/15.	
			Models for Manual Training in Special Classes. TS11, 104, 1914/15.	
			A Contest. TS14, 34, 1917/18	
1905	Tens, Elizabeth	Brooklyn Training School		Class Management A Few Practical Devices. UG, 1(8), 177-178, 1916; A Report of a Survey of the Children in the Un-graded Classes in the Borough of the Bronx. UG, 3(4), 75-82, 3(6), 104-107, 1918.
1907	Flowers, Bertha	Training School at Vineland	School Garden Harvest. TS 5(7), 10, 1908/09. Our Vegetable Garden. TS 12, 228, 1910/11.	
	Carpenter, Eliza D.		The Alumnee. TS 5(11), 9, 1908/09	
	Shaw, Jane F.		An Arithmetic Game. TS10, 117a, 1913/14.	
	Thoff, Josephine	Public School No.27, Bronx		Hand-Work: What My Community Gives Me Free of Charge. UG, 4(2), 45, 1918.
	Dillingham, Agnes	Minnesota School for feeble-minded		Notes on Adolph M., 1901-'02. JPA, 49-54, 1903/04.
1908	Anderson, Meta L.	Principal of Schools for Defectives, Newark, New Jersey (Commissioner of Education, 1917); Director of Binet Schools, Newark, N.J. (JPA, 1926/27); Director, Binet Department, Newark, N.J. (JPA, 1930); Director of Special Education, Newark, N.J. (TS, 1933)	A Drop in the Buck. TS16, 86, 1919/20	※審査有り・書評掲載UG, 4(2), 47, 1918: Education of Defectives in the Public Schools. World Book Co., Yonkers, N. Y.
			An Investigation of all Pupils of a Defective School in regards to their Stability of Instability. TS21, 16, 19	Education and Training of Older Dull Pupils. JPA, 36, 100-109, 1930/31.
			Correlation of the Special Class with the Community. TS22, 81, 1925.	
			Essential Characteristics of the Type of Education Best Adapted to the Needs of the Mental Defective. TS, 25, 97, 1928/29	Why Special Classes? MH, 15, 87-100, 1931.
			The Special Child. TS27, 97, 1930/31	
			Special Education. TS, 30, 62, 1933/34.	
	Commons, Clara		A normal Backward Child in the Public School. TS13, 171, 1916/17	
	Bell, Catherine		Impressions of a Summer School Student, TS 5(9), 16, 1908/09	
			Another Experience with the Binet Test. TS10, 77, 1913/14.	
	Matthews, Mabel A.	Director of Social Service Department, Mansfield State Training School and Hospital (JPA, 1931/32)		One Hundred Institutionally Trained Male Defectives in the Community Under Supervision MH, 6 332-342, 1922. Connecticut's Progress in the Care of the Feeble-minded. JPA 32, 75, 1926/27. Mansfield's Waiting Lists: Active and Closed. JPA, 37, 223-228, 1931/32.

註：各雑誌の検索対象期間はつぎの通り。TS 1904-1934, UG 1915-1926, JPA 1904-1933, MH 1917-1934.

なお、この表中に示された文献については、文末文献一覧では省略した。

所属・役職については、典拠とした文献の誌名、発表年を（ ）内に示した。

れていたが、このうちの11学級の担任および特殊教育主事が、夏期講習の修了者であったということから (TS [1911] 8 (7), Current Events, 105)¹¹⁾、夏期講習修了者の多くが実際に特殊学級を担任し、あるいは施設での「精神薄弱」児教育に従事したと考えられる。

2. 関連専門誌・ヴァインランド施設紀要にみる講習修了者の論文・手記掲載状況

1903年～1908年の受講修了者57名のうち、関連専門誌 (JPAとUG, MHの3誌) およびTS上に論文・手記等の掲載が確認できた者は、11名であった (Table 4)。

この11名のうち専門誌への投稿がみられた者は5名であった。この5名は、「精神薄弱」児の実態調査報告や特殊学級の必要性についての啓

蒙論文を投稿していた。中でももつとも顕著な活躍をした者は、M. アンダーソン (Anderson, Meta L.) であった。彼女は、ニュージャージー州ニューアークの特殊教育主事を務めた人物であり、本研究の調査でも最も多い8本の論文・手記を掲載していた。また、『公立学校における欠陥児教育』(Education of Defectives in the Public Schools) という本を1918年に出版し、専門誌UGにその書評が掲載されている。さらに、彼女は、1914年に、ニュージャージー州のモントクレア州立師範学校で、「精神欠陥」児教育に関する30の講義を行っている (TS [1914] 11(1), Lectures for Teachers, 15)。他の7名はヴァインランド施設紀要への投稿であり、事例報告や授業実践報告であった。

ヴァインランド施設の教員では、手工訓練担当の教師コーラ (Cora, W.) と、施設内菜園における園芸と自然観察担当の教師バーサ (Bertha, F.) の2名が、ヴァインランド施設の実践報告を掲載していた。この報告は、たとえば、手工訓練の教材としての型紙の詳細を提示するなど、現場の教員への参考情報の提供という意味合いが強いように思われる。

また、施設紀要には記名記事のほか、各都市の特殊学級の現状報告が掲載されており、これも講習修了者の手によるものであった。講習修了者の同窓会が1906年に結成され (TS [1907], No. 43)、1914年までには組織的な活動が活発になる¹²⁾。施設紀要上に「同窓会」や「特殊学級」という項が設けられ、盛んに情報交換が行われた。修了者がヴァインランド施設を訪問したり、逆に、ヴァインランド施設のスタッフが修了者の勤務校を訪問したりするなど、修了者と施設との交流が積極的に維持された。ヴァインランド施設を核とした「精神薄弱」教育実践研究が進められていくのである。

3. 大学や他施設への夏期講習の拡大

ヴァインランド施設は、夏期講習を開講する一方で、同様のプログラムが大学でも提供されるべきことを施設紀要の中で訴えていた。施設紀要では、1906年にニューヨーク大学 (New York University) の教育学部で「欠陥児」の教育に関するコースが設けられたことを、ヴァインランド施設の主張が理解され実現されたことは喜ばしいことであると賞賛している (TS [1906] No. 33, University Training)。1911年には、ゴダードがニューヨーク大学で「精神薄弱」児に関する講義を実施している (TS [1911] 8 (5), 80)。

1914年の施設紀要では、この年に実施される「精神薄弱」児教育のための講習会が一覧にされ紹介されている。

ニューヨーク大学、ペンシルヴェニア大学 (the University of Pennsylvania)、コロラド州立師範大学 (State Teachers' College of Colorado)、ワシントン大学 (University of Washington)、ピツ

ツバーグ大学 (University of Pittsburg)、コロンビア大学師範学部 (Teachers' College of Columbia University)、ミネソタ「精神薄弱」者施設でんかんコロニー (the Minnesota School for Feeble-Minded and Colony for Epileptics)、ニューヨーク州立ローム「精神薄弱」者施設 (the Rome State Custodial Asylum)、ヴァインランド施設の9カ所の大学や「精神薄弱」者施設で同様の講習が実施されていた (TS [1914] 11 (1), Summer Schools for Teachers of Special Classes, 12-15)。

ゴダードは上述のようにニューヨーク大学の講習では教授陣の一員であったし、コロラド師範大学でも教授陣に名を連ねていた。さらに、上述のM. アンダーソンのように、ヴァインランド夏期講習の修了者が師範学校の教授陣に名をつらねることもあった。たとえば、ニューヨーク州立オスウィーゴ師範学校 (Oswego State Normal School) で1916年から開設された特殊学級教員養成コースでは、ヴァインランド夏期講習修了者のオーティス (Otis, Flora E.) とフィッチ (Fitch, Adelaide) の2名が、それぞれ学科主任と補佐として教授陣の中心として活躍していたという。この2名は、師範学校長リグス (Riggs, James) によって、当時の標準的訓練を受けた者として評価されていたようである (Sarason & Doris [1979] 319)。

このように、ヴァインランド夏期講習修了者に対する教育関係者の信頼は大きかったと考えられる。

大学や師範学校、施設で実施された特殊学級教員養成プログラムが、ヴァインランド施設夏期講習に類似した内容と方法で行われていった可能性が考えられる。

IV. まとめと残された課題

ヴァインランド施設で開講された「精神薄弱」特殊学級担当教員夏期講習は、「精神薄弱」特殊学級の指導者養成を主な目的とした特殊学級担当教員養成研修プログラムであった。このプログラムは、もともとは「精神薄弱」教育の専門家であるジョンストンの着任後、施設教員の指

導力向上のために実施されていた教員研修会の一環としての講習会が公立学校教員に開放され、発展したものであった。

この夏期講習は、原則として通常教育の教員免許を有する者が対象であり、学校の教員に、実地指導を中心としたカリキュラムで「精神薄弱」教育の理念・知識・技能を教授した。教員免許の所有が前提とされていることから、教育者が精神薄弱児の教育指導を行うべきであるという考え方があらわれている。

講習修了者は、施設によってその研修の結果を評価され、修了証を授与された。ヴァインランド夏期講習の修了証を得るということは、当時の標準的かつ実践的指導力を身につけた者としての公的資格を有するに等しかったと考えられる。修了者の指導力や有資格者としての公立学校における彼らの待遇に関する検証が今後の課題である。また後述のとおり、他の養成機関における養成との関係についても対照する必要がある。

ヴァインランド夏期講習の修了者の多くが特殊学級教育に従事し、あるいは、ヴァインランド施設と類似の教員養成プログラムの講師として活躍したことから、ヴァインランド施設における「精神薄弱」者の処遇理念と方法が、「精神薄弱」特殊学級における教育実践に影響をあたえたと考えられる。このことは、ヴァインランド施設が、夏期講習同窓会とTSを核にして修了生からの実践報告や地域の現状報告を収集・発信していたことから推察できよう。ヴァインランド施設は、夏期講習をきっかけにして「精神薄弱」特殊学級担任教師にとっての指導方法や教材の工夫を情報交換する情報センターとしても機能するようになったと考えられる。ただし、本稿で検討した講習修了者は初期に限られた人数であり、さらなる受講生の検索と追跡が必要である。

ヴァインランド施設は、学校教育における「学習遅進」問題を含む新しい「精神薄弱」処遇問題を主題として施設正規教員研修を実施しており、施設と公立学校との関係のなかで、施設主

導で「精神薄弱」教育の内容と方法を研究・実践していくという姿勢をとっていたと考えられるが、この点は、今後さらに、施設長ジョンストンの「精神薄弱」問題における施設の役割に関する論考等を分析し、検討する必要がある。

また、夏期講習の内容は、教育部長ナッシュによる教育実習とゴダードによる実験的「精神薄弱」児研究の実際に重点が置かれ、ヴァインランド施設がその後、知能検査のメッカとなっていく上で重要な役割を果たしたのではないかと考えられる。さらに「精神薄弱」教育が、教科指導を排し、手工訓練と実業訓練中心で展開していくルーツもヴァインランド施設をはじめとする施設主導での研究教育と教員養成にあった可能性が提示できるのではないだろうか³⁾。

この点についても、ヴァインランド施設の施設長ジョンストンをはじめとする諸施設の施設長の教育理念や教育実践法や、ヴァインランド施設のゴダードの研究成果をはじめとする施設における精神薄弱児研究の成果等を分析することで今後検討したい。

また、他の施設や大学、師範学校で開始されるプログラムの実態についても今後具体的に明らかにする必要がある。養成プログラムのシラバス等の発掘とともに、1910年代以降に出版されるようになる養成プログラムにおけるテキストを想定した教育関係、心理学関係の教科書や叢書の検索、収集、分析が課題となる。

付記：本研究はH. 15・16年度科学研究費補助金若手研究(B) (課題番号15730404) による研究成果の一部である。本研究は第41回日本特殊教育学会において発表・討議された内容をもとに、執筆者の共同討論の上、加筆修正された。

謝辞：資料の収集にあたり、米国議会図書館のT.Y.Oha氏にご協力いただいた。ここに記して感謝申し上げる。

注

1) 「精神薄弱」という用語は知的障害を中核として道徳上、行動上の逸脱をも含む状態像に対する総称（学習遅進 (backward) や低能 (subnormal) などを含むあらゆる用語の総称) として用いられた歴史的用語として用いる。その状態像は、当該時代・時期の習慣や知能尺度等の観点から逸脱していると見なされたものを指している。20世紀の第一四半期は、「精神薄弱」問題が、教育的適応上の問題あるいは社会的適応上の問題として強調され、生理学的指標から心理学的指標へとその判定基準が変化していく時期である。

Barr (1904) は『精神欠陥』(Mental Defectives) のなかで、「精神薄弱」(feeble-minded) を白痴 (idiot)、白痴的痴愚 (idio-imbecile)、道徳的痴愚 (moral imbecile)、痴愚 (imbecile)、学習遅進あるいは精神薄弱 (backward or mentally feeble) に、教育的処遇上の観点から分類している。従来からの「精神薄弱」に「学習遅進」が加わり「精神薄弱」問題の対象は広がりを見せる。アメリカ精神薄弱研究協会 (American Association for the Study of the Feeble-minded: AASF) に設けられたゴダードを唯一の常任委員とする「精神薄弱」の分類に関する委員会は、1910年、軽度級の「精神薄弱」を示す魯鈍 (moron) を定義する (Rogers, 1910)。

このAASFは、精神薄弱者施設長協会 (Association of Medical Officers of American Institutions of Idiotic and Feeble-minded: AMO) として、施設長の専門的地位の向上と権限の強化を意図して、1876年に創設され、1906年にAASFに改称、さらに1933年にはアメリカ精神薄弱協会 (American Association on Mental Deficiency: 現在はAmerican Association on Mental Retardation) に改称されている。「精神薄弱」問題のとらえ方の変化とともに総称が変化してきていることが理解されよう。

2) 1906年、AMOがAASFに改称され、「精神薄弱」の原因やその防止、「精神薄弱」者の教育

指導やケア、彼らの全般的な福祉に関する諸問題の研究と調査を実施・推進していくことが、会の目的として明示された。ここでいうセンターとは、AASFが目的に掲げる研究・調査と、その成果の「精神薄弱」者と社会への提供、を執行する機関としての施設の位置づけを指す。

3) ヴァインランド施設は、1888年にS. O. ガリソン (Garrison, Stephen Olin 1853-1900) によってニュージャージー州ヴァインランドに設立された私立の「精神薄弱」者施設であるが、州費生を受け入れており、公的施設の性格を有していた。U.S. Commissioner of Education (1917) では、公的施設に分類されている。施設名は、The New Jersey Home for the Education and Care of Feeble-minded Children (1888), The New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1893), The Training School at Vineland (1911) と変化している。1898年より副施設長をつとめていたE. R. ジョーンストン (Johnstone, Edward Ransom 1870-1945) が、ガリソンの死後、1900年に施設長に就任する。この後、ヴァインランド施設は、20世紀前半の「精神薄弱」問題研究の中心として「精神薄弱」者の処遇の動向に大きな影響力を持つ施設となっていく。ヴァインランド施設の歴史については、McCaffrey (1965); Doll (1988) ならびに

<http://www.vineland.org/history/training-school/history/timeline.htm>を参照。

4) ヴァインランド施設紀要は、1904年に“The Training School”として創刊され、1907年12月からはThe Supplement to the Training Schoolが合冊通しページの形で加えられる。さらに、1913年より“Training School Bulletin”へ改称されている。

5) 夏期講習開始時期については、TSでは1904年が第1回として宣伝されており、McCaffrey (1965) はこれを典拠としている (216)。また、Zenderland (1998) は、ヴァインランド施設職員への夏期講習会開始を1903年、

- 公立学校教員への開放を1904年としている(62, 109)。1908年の夏期講習修了生でヴァインランド施設の施設外サービスの部長のH. F. ヒルも、1903年を施設教員への夏期講習実施、翌1904年を公立学校教員への開放と記述している(Hill [1945] 204)。しかし、NJTS (1909)では夏期講習は、初回としてヴァインランド施設教員・トレーナー限定で1902年に実施され、翌1903年からは公立学校教員に開放されたとする記述が見られ、あわせて1903年より08年までの受講者名簿が掲載されている。この名簿をみるかぎり、1903年の受講生9名のうち、ヴァインランド以外の地域や他州からの参加者が5名含まれており、施設外の公立学校教員を、すでに1903年に受け入れていたと考えられる。通常、夏期講習は7～8月に実施されていたことから、6月のバーンズの訴えを受けたあとに十分実施可能であったと考えられる。またジョンストンも1902年を夏期講習の開始と記述している(Johnstone [1914] 4)。これらのことから、本稿では、公立学校教員への夏期講習開放を1903年とした。
- 6) A. モリソンは、ニューハンプシャー州ニューハンプトンの文学聖書学校(Literary and Biblical Institute at New Hampton, New Hampshire)を卒業して、1900年よりヴァインランド施設教員となった。彼女は精神薄弱教育の特別な訓練は受けていなかったという。彼女は1909年、彼女と同じく1900年からヴァインランド施設の職員となった副施設長C. E. ナッシュ(Nash, C. Emerson ?-1953)と結婚した(McCaffrey [1965] 81)。特別な訓練は受けていなかった彼女ではあるが、1903年には教育部長となっている(AR [1903] 3)。施設就職後の3年間にわたるジョンストンのもとの実務と施設教員研修会、講習会が、彼女を教育部長に育てたということであろうか。1903年までの彼女自身の施設教員としての活動については未詳。
- 7) 1905年の年報では、ゴダードはペンシルヴェニア州チェスター在と記されている。
- 8) ヴァインランド施設の研究所(Laboratory)は、授産・職業訓練棟(Industrial Building)の2階に6部屋続きで設けられ、子どもの研究と検査に必要な器具・機材がそろえられていた。
- 9) ヴァインランド施設では、1911年には、知能検査の方法を学ぶ冬期講習が、夏期講習修了者を対象に開講された。さらに1914年には、知能検査の実施と子どもの診断・指導法に重点が置かれた夏期講習アドバンスコースに講習内容の変更が試みられる。このコースは、夏期講習修了者や他の養成機関で特殊学級担当教員の研修を受けた者を対象にした公立学校における特殊教育のスーパーバイザー養成講座であったが、成果があがらず、もとの夏期講習に戻された(McCaffrey [1965] 220)。
- 10) McCaffrey (1965)によれば、1911年には受講申し込みが100名あり、施設設備上の制限から60名が受講を許可されたという。本稿で入手した名簿は初期6年間のものであり、さらなる受講生の検索と検索が必要である。
- 11) 主事の名はベーン女史(Boehne)と記されているが03～08年の受講者名簿には見当たらない。教育部長ナッシュは、1911年の9月28日から1週間、ロチェスターの特殊学級を訪問している。
- 12) 1914年には、施設との交流の薄い修了生を含めてすべての修了生のネットワークを構築するために、修了生の状況調査が実施されている。
- 13) 1915年までには精神薄弱の程度と学習可能な学年段階や内容、到達可能な精神年齢(何歳の「正常児」と同等か)の関係が広く論じられるようになっていく(Holmes [1915] 182-184)。また、精神薄弱児の教育は、特殊学級でも施設でも、感覚訓練、手工と実業的訓練が中心であるべきであるとされる(Anderson [1921] 85-122)。

引用文献

- Anderson, V.V. (1921) Education of mental defectives in state and private institutions and in special classes in public schools in the United States. *Mental Hygiene*, 5, 85-122.
- Barr, M. W.(1904) *Mental defectives their history, treatment and training*. P.Blakiston's Son & Co., Philadelphia (Reprinted, 1973, Arno Press, New York).
- Chace, L. G. (1904) Public school classes for mentally deficient children. *Proceedings of the National Conference of Charities and Correction*, 31, 390-401.
- Channing, W. (1900) Special classes for mentally defective public school children. *Journal of Psycho-Asthenics*, 5, 40-46.
- Doll, E. E. (1988) Before the big time: Early history of the Training School at Vineland, 1888 to 1949. *American Journal on Mental Retardation*, 93 (1), 1-15.
- Goddard, H. H. (1908) The Binet and Simon tests of intellectual capacity. *Training School*, 5 (10), 3-9.
- Goddard, H. H. (1912) The improvability of feeble-minded children. *Journal of Psycho-Asthenics*, 17, 121-131.
- Goddard, H. H. (1914) *School training of defective children*. World Book Company, New York.
- Hill, H. F. (1945) Vineland summer school for teachers of backward and mentally deficient children. *Journal of Exceptional Children*, 11, 203-209.
- Holmes, A. (1915) *Backward children*. The Bobbs-Merrill Company Publishers, Indianapolis.
- Johnstone, E. R. (1914) The extension of the care of the feeble-minded. *Journal of Psycho-Asthenics*, 14 (1), 2-18.
- McCaffrey, K. R. (1965) *Founders of the Training School at Vineland, New Jersey: S.Olin Garrison, Alexander Johnson, Edward R. Johnstone*. Columbia University, Ed. D., UMI, Michigan.
- 中村満紀男 (1992) 世紀転換期アメリカ公立学校制度における精神薄弱特殊学級(学校)の成立とその意義について(1). 秋田大学教育学部研究紀要教育科学, 43, 77-79.
- 中村満紀男 (1993) 世紀転換期アメリカ公立学校制度における精神薄弱特殊学級(学校)の成立とその意義について(3・完). 秋田大学教育学部研究紀要教育科学, 45, 53-81.
- 中村満紀男・米田宏樹 (1999) 1910年代までのアメリカにおける精神薄弱者の小コロニー設置とコミュニティ生活への復帰ーコミュニティ生活の再生過程とその背景(1)ー. 筑波大学リハビリテーション研究, 8, 37-47.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1898) *10th annual report*.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1899) *11th annual report*.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1903) *15th annual report*.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1905) *17th annual report*.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1906) *18th annual report*.
- New Jersey Training School for Feeble-Minded Girls and Boys (1909) *The Vineland summer school for teachers: Announcement*.
- Rogers, A.C. (1910) Report of the committee on classification of feeble-minded. *Journal of Psycho-Asthenics*, 15, 61-67.
- Sarason, S.B. and Doris, J. (1979) *Educational handicap, public policy, and social history: A broadened perspective on mental retardation*. Free Press, New York.
- U.S. Commissioner of Education (1917) *Report of the commissioner of education, Vol.II*.
- 米田宏樹 (2003) 1920年代までの米国における「精神薄弱」者施設のセンター的役割の強調: 社会的処遇における公立学校特殊学級と施設の相互補完. 社会福祉学, 44 (1), 46-55.
- Zenderland, L. (1998) *Measuring minds: Henry Herbert Goddard and the origins of American intelligence testing*. Cambridge University Press, New York.

— 2004. 8. 26 受稿、2004. 12. 7 受理 —

**Training Program of Special Class Teacher conducted by the“Training
School at Vineland” :
Contents of the Program in the Early Day**

Hiroki YONEDA, Takako HONMA, Noriko OKA and Keiko YAMADA

The aim of this paper is to clarify the purpose of the “Vineland Summer School for Teachers” conducted by the “New Jersey Training School for Feeble-minded Girls and Boys” in the early 20th century. In 1903, this summer school was started as a six-week training program targeted primarily at teachers of backward and feeble-minded children in the special classes of public schools. This course was developed from the in-service training of the staff of the Vineland training school and offered institutional ideas for the treatment of children with “feeble-mindedness” and institutional training procedures, such as sensory training and manual training, for the special classes of public schools. Many of the teachers who completed the course conducted a special class, while some also served as lecturers for a similar training course. Those certified as having completed the course from the Vineland Summer School were evaluated as having undertaken the standard training conducted by the authority in the field of “feeble-mindedness.”

Key Words : “feeble-mindedness”, special class, institution, teacher training, historical study